

一 日本國和蘭國間司法的解決、仲裁裁判及調停條約 草案

昭和八年（千九百三十三年）四月十九日「ハーグ」ニ於テ作成
昭和十年（千九百三十五年）六月八日 批准

同 年（同 年）八月十二日「ハーグ」ニ於テ批准書交換
同 年（同 年）八月十三日（同月十四日附官報）公布
批准書 交換ノ日ヨリ 實施

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ昭和八年四月十九日「ハーグ」ニ於テ帝國全權
委員ガ和蘭國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國和蘭國間司法的解決
仲裁裁判及調停條約ヲ批准シ茲ニ署名議定書ト共ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

昭和十年八月十三日

内閣總理大臣 岡田 啓介
外務大臣 廣田 弘毅

條約第八號

日本國和蘭國間司法的解決、仲裁裁判及調停條約

及

日本國皇帝陛下

和蘭國皇帝陛下ハ
日本國和蘭國間ノ永年ノ友好關係ヲ鞏固ナラシムルノ希程ニ均シク促サ

レ
兩國間ニ生ズルコトアルベキ紛争ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハズ之ガ解決ヲ
如何ナル場合ニ於テモ平和的手段ノ外ニ求メザルコトヲ固ク決意シ
之ガ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ
日本國皇帝陛下

和蘭國駐劄特命全權公使齋藤博
和蘭國皇帝陛下

外務大臣「ヨンクハール、フランス、ベーラールツ、フアン、プロツクランド」
右全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後
左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

締約國間ニ生ジ且通常ノ外交手續ニ依リ相當ノ期間内ニ解決セラレ得ザ
ルコトアルベキ一切ノ紛争ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハズ本條約ノ規定ニ從
ヒテ設置セラレ且活動スル常設調停委員會ニ締約國間ノ合意ニ依リ又ハ

其ノ一方ノ請求ニ依リ付託セラルベシ兩締約國ニ於テ法律的ノモノナルベシト認メタル紛争ハ締約國間ノ合意ニ依ルノ外常設調停委員會ニ付託セラレザルベシ

第二條

紛争ニシテ其ノ解決ニ關シ特別ノ手續ガ締約國間ニ實施中ノ他ノ條約ニ依リ定メラルルモノハ右條約ノ規定ニ從ヒ解決セララルベシ

第三條

法律的紛争特ニ締約國間ニ實施中ノ條約ノ解釋ニ關スル紛争ニシテ常設調停委員會ニ付託セラレザルカ又ハ之ニ付託セラレタルモ其ノ報告ノ作成後三月内ニ解決セラレザルモノハ締約國ノ一方ニ依リ他方ニ對シ爲サル請求ニ基キ特別取極ノ方法ニ依ル合意ヲ以テ常設國際司法裁判所又ハ仲裁裁判所ニ付託セララルベシ常設國際司法裁判所ハ其ノ規程ニ依リ定メラルル條件及手續ニ從ヒ裁判スベク又仲裁裁判所ハ國際紛争ノ平和的處理ニ關スル千九百七年十月十八日ノ「ハーグ」條約ニ依リ定メラルル條件及手續ニ從ヒ裁判スベシ特別取極ハ締約國政府間ニ於ケル文書ノ交換ニ依リ設定セララルモノトス

締約國ノ一方ニ依リ他方ニ對シ爲サル常設國際司法裁判所又ハ仲裁裁判所ニ紛争ヲ付託スルノ提議ノトキヨリ三月ノ期間内ニ管轄裁判所ノ選擇ニ關シ締約國間ニ意見一致セザルトキハ紛争ハ前項ニ定メラルル手續ニ從ヒ右司法裁判所ニ付託セララルベク該裁判所ハ其ノ規程ニ依リ定メラ

ルル手續ニ從ヒ右司法裁判所ニ付託セラルハ其ノ裁決ニ依
 見定條 件ル及 事件手續ニ從ヒ裁判スベシ紛争ハ締約國ガ之ヲ仲裁裁判
 所ニ付託スルコトニ意見一致シタルモ次條ノ規定ニ依ル右裁判所ノ設置
 ガ同條第二項ニ掲ゲラルル請求ノトキヨリ五月内ニ爲サレザリシトキハ
 同一ノ手續ニ從ヒ均シク常設國際司法裁判所ニ付託セラルベシ

第四條

締約國ガ紛争ヲ仲裁裁判所ニ付託スルコトニ意見一致シタルトキハ右裁
 判所ハ別段ノ了解ナキ限り五名ノ裁判官ヲ以テ構成セラレ且次ノ方法ニ
 依リ設置セラルベシ即チ締約國ハ其ノ國民中ヨリ選定セラレ得ベキ一名
 ノ仲裁裁判官ヲ各任命スベク又裁判長及他ノ二名ノ仲裁裁判官ハ第三國
 ノ國民中ヨリ合意ニ依リ選定セラルベシ右三名ノ仲裁裁判官ハ各異リタ
 ル國籍ヲ有スベシ
 締約國ノ一方ニ依リ他方ニ對シ爲サルル仲裁裁判所ヲ共同シテ設置スル
 コトノ請求ノトキヨリ三月ノ期間内ニ仲裁裁判所ノ裁判官ノ任命ガ行ハ
 レザルトキハ必要ナル任命ヲ爲スノ手配ハ締約國ガ合意ヲ以テ選定スル
 第三國ニ委囑セラルベシ
 右ニ關シ合意成立セザルトキハ各締約國ハ異リタル一國ヲ指定スベク又
 任命ハ斯ク選定セラレタル國ニ依リ協同シテ爲サルベシ

第五條

死亡、辭任又ハ他ノ何等カノ故障ニ依リ仲裁裁判所ニ生ズルコトアルベ

キ関員ハ任命ニ關シ第四條ニ定メラルル方法ニ從ヒ最短キ期間内ニ補充セラルベシ

第六條

第四條ニ掲ゲラルル仲裁裁判ハ第七條、第八條及第九條ノ規定ニ依リ規律セラルベシ

第七條

締約國ハ紛争ノ目的及準據手續ヲ決定スル特別取極ヲ作成スベシ
特別取極ニ於テ充分ナル指示又ハ明示ナキトキハ仲裁手續ハ國際紛争ノ平和的處理ニ關スル千九百七年十月十八日ノ「ハーグ」條約ノ規定ニ依リ處理セラルベシ

第八條

仲裁裁判官ニ依リ適用セラルベキ實體法規ニ關シ別段ノ了解ナキトキハ仲裁裁判所ハ左記ニ基キ其ノ決定ヲ爲スベシ

- 一 兩締約國間ニ實施中ノ一般又ハ特別ノ條約及之ニ由來スル法的規則
- 二 法トシテ承認セラレタル一般の慣行ノ表現ト認メラルル國際的慣習
- 三 文明國ニ依リ認メラレタル法的一般原則
- 四 法的規則決定ノ補助手段トシテノ最權威アル學說及判例ノ歸結

第九條

仲裁判決ノ再審ノ請求ハ仲裁裁判ノ特別取極ニ反對ノ規定ナキ限り裁判所ニ依リ定メラルベキ期間内ニ國際紛争ノ平和的處理ニ關スル千九百七

年十月十八日ノ「ヘーグ」條約第八十三條第二項及第三項ノ規定ニ從ヒ
受理セララルベシ

第十條

紛争ニシテ其ノ目的ガ締約國ノ一方ノ國內法制ニ依レバ該締約國ノ内國
裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付テハ該紛争ハ既判力ヲ有シ且相當ノ期間
内ニ權限アル内國裁判官憲ニ依リ言渡サレタル判決ノ後ニ非ザレバ本條
約ニ依リ定メララルル手續ニ付託セララルルコトヲ得ズ

第十一條

本條約ニ依リ定メララルル常設調停委員會ハ次ノ方法ニ依リ指名セララルベ
キ五名ノ委員ヲ以テ構成セララルベシ即チ締約國ハ各自ノ國民中ヨリ一名
ノ委員ヲ各任命スベク且第三國ノ國民中ヨリ他ノ三名ノ委員ヲ合意ニ依
リ指名スベシ茲三名ノ委員ハ各異リタル國籍ヲ有スベク且其ノ中ヨリ締
約國ハ委員會ノ議長ヲ指名スベシ
委員ノ任期ハ本條約ノ實施ノ日ヨリ五年トシ其ノ委任ハ更新セララルコ
トヲ得右委員ハ其ノ更任ニ至ル迄又一切ノ場合ニ於テ其ノ委任ノ滿期ノ
際ニ進行中ナル事業ノ完了ニ至ル迄職務ニ留ルベシ
死亡、辭任又ハ永久的若ハ一時的ノ故障ニ因リ生ズルコトアルベキ委員
ハ任命ニ付定メラレタル方法ニ從ヒ成ルベク速ニ且三月ヲ超エザル期間
内ニ補充セララルベシ斯ク指名セラレタル者ノ任期ハ其ノ前任者ノ未了委
任期間ノミタルベシ

第十二條

常設調停委員會ハ本條約ノ批准書ノ交換後成ルベク速ニ設置セラルベシ
 共同シテ指名セラルベキ委員ノ任命ガ條約ノ批准書ノ交換後六月内ニ行
 ハレザルカ又ハ補闕ノ場合ニ於テ闕員ノ生ジタルトキヨリ三月内ニ行ハ
 レザルトキハ常設國際法裁判所長ハ別段ノ了解ナキ限り兩締約國ニ依リ
 共同シテ又ハ其ノ一方ニ依リ必要ナル指名ヲ爲スコトヲ求メラルベシ裁
 判所長ニ故障アルカ又ハ裁判所長ガ締約國ノ一方ノ國民ナルトキハ裁判所次長ハ右指名ヲ爲ス
 コトヲ求メラルベシ裁判所次長ニ故障アルカ又ハ裁判所次長ガ締約國ノ一方ノ國民ナルトキ
 ハ裁判所ノ名簿ノ順位ニ依リ他ノ裁判官中ノ首席タル者ニシテ何レノ條
 約國ノ國民ニモ非ザルモノガ右指名ヲ爲スコトヲ求メラルベシ

第十三條

常設調停委員會ハ議長ニ宛テラルル請求ノ方法ニ依リ事件ノ付託ヲ受クベシ
 請求ニハ紛争ノ目的ヲ簡單ニ敘述シタル後調停ニ達スルニ適當ナル一切
 ノ措置ヲ執ルベキ旨ノ委員會ニ對スル要請ヲ包含セシムベシ
 請求ガ締約國ノ一方ノマヨリ提出セラルルトキハ該請求ハ右締約國ニ依
 リ相手方締約國ニ遲滯ナク通告セラルベシ

第十四條

常設調停委員會ハ係争問題ヲ明ニシ、之ガ爲審査又ハ他ノ方法ニ依リ一
 切ノ有田ナル情報ヲ蒐集シ且締約國ヲ調停スルニ努ムルコトヲ任務トス
 ベシ右委員會ハ事件ノ審理ノ後其ノ適當ト認ムル和解ノ條件ヲ締約國ニ

呈示シ且必要アルトキハ締約國ニ其ノ意見ヲ開陳スル爲ノ猶豫ヲ與フル
コトヲ得

委員會ハ其ノ事業ノ終了ニ當リ該事業ノ結果ヲ記載セル報告書ヲ作成ス
ベク、該報告書ハ一通ツツ各締約國ニ交付セラルベシ報告書ニハ委員會
ノ決定ガ全會一致ニ依リ爲サレタリヤ又ハ過半数ニ依リ爲サレタリヤハ
之ヲ記載セザルベシ

締約國ハ委員會ノ採用セル事實上、法律上其ノ他ノ判斷ニ何等縛束セラ
ルルコトナカルベシ

委員會ノ事業ハ委員會ガ紛争ノ付託ヲ受ケタル日ヨリ遅クトモ二月内ニ
開始セララルベシ締約國ガ別段ノ協定ヲ爲サザルカ又ハ委員會ガ期間ヲ延
長スルコトヲ必要ト認メザル限り右事業ハ委員會ガ開始ヲ宣シタル日ヨ
リ六月ノ期間内ニ終了セララルベシ委員會ハ六月ノ期間ヲ超エテ其ノ事業
ヲ繼續スルコトヲ必要ト認ムルトキハ其ノ理由ヲ兩締約國ニ通報スベシ

第十五條

常設調停委員會ハ反對ノ特別規定ナキ限り自ら其ノ手續ヲ決定スベク右
手續ハ何レノ場合ニ於テモ對審的タルベシ審査ニ關シテハ委員會ハ其ノ
全會一致ヲ以テ別段ノ決定ヲ爲サザルトキハ國際紛争ノ平和的處理ニ關
スル千九百七年十月十八日ノ「ハーグ」條約第三章（國際審査委員會）
ノ規定ニ從フベシ

第十六條

議長ハ常設調停委員會ガ紛争ノ付託ヲ受ケタル後成ルベク速ニ該委員會ヲ招集スベシ
委員會ハ締約國間ニ反對ノ合意ナキ限り其ノ議長ニ依リ指定セラルル地及日ニ會合スベシ

第十七條

常設調停委員會ノ事業ハ委員會ガ締約國ノ同意ヲ得テ爲ス決定ニ基クノ外公開セラルルコトナシ
締約國ハ豫メ協議ヲ爲スニ非ザレバ委員會ノ事業ノ結果ヲ公表セザルコトヲ約ス

第十八條

締約國ハ締約國ト常設調停委員會トノ間ノ仲介者タルノ任務ヲ有スル代理人ニ依リ該委員會ニ代表セラルベシ尙締約國ハ其ノ特ニ任命スル輔佐人及専門家ノ援助ヲ受クルコト竝ニ何人タルヲ問ハズ其ノ證言ガ締約國ニ有用ナリト認めラルル者ノ訊問ヲ請求スルコトヲ得
委員會モ亦兩締約國ノ代理人、輔佐人及専門家ニ對シ竝ニ委員會ガ何人タルヲ問ハズ其ノ本國政府ノ同意ヲ得テ之ヲ出頭セシムルコトヲ有用ト認めムベキモノニ對シ口頭説明ヲ請求スルノ機能ヲ有スベシ

第十九條

常設調停委員會ノ決定ハ本條約ニ反對ノ規定ナキ限り表決ノ過半数ニ依

リ爲サルベシ
 委員會ハ一切ノ委員ガ正當ニ招集セラレ且少クトモ共同シテ選任セラレ
 タル一切ノ委員ガ出席スルニ非ザレバ紛争ノ實體ニ關スル決定ヲ爲スコ
 トヲ得ズ

第二十條

締約國ハ常設調停委員會ノ事業ヲ容易ナラシメ殊ニ自國ノ權限アル官憲
 ノ援助ヲ委員會ニ對シ保障シ、有用ナル書類及情報ヲ能ク限リ多ク委員
 會ニ供給シ且委員會ヲシテ證人又ハ鑑定人ノ召喚及訊問並ニ臨檢ヲ自國
 ノ領域内ニ於テ爲スコトヲ得シムル爲ニ必要ナル措置ヲ執ルコトヲ約ス

第二十一條

常設調停委員會ノ事業ノ繼續中ハ各委員ハ締約國間ノ合意ニ依リ決定セ
 ラルル額ノ手當ヲ受クベク締約國ハ各之ヲ均等ニ分擔スベシ委員會ノ活
 動ニ依リ生ジタル全般ノ費用ハ半額ツツ割當テラルベシ

第二十二條

仲裁裁判所又ハ常設國際司法裁判所ノ決定ハ締約國ニ依リ誠實ニ執行セ
 ラルベシ

締約國ハ常設調停委員會、仲裁裁判所又ハ常設國際司法裁判所ノ手續ノ
 繼續中ハ常設調停委員會ノ提案ノ受諾ニ對シ又ハ仲裁裁判所若ハ常設國
 際司法裁判所ノ決定ノ執行ニ對シ不利ナル影響ヲ與フルコトアルベキ何
 等ノ措置ヲモ執ラザルコトヲ約ス仲裁裁判所ハ締約國ガ行政的手段ニ依

リ執リ得ルモノナル限リ締約國ノ一方ノ請求ニ依リ假措置ヲ命ズルコトシ
ヲ得常設調停委員會モ同一ノ目的ヲ以テ提案ヲ爲スコトヲ得常設國際司
法裁判所ニ關シテハ其ノ規程ガ適用セラルベシ

第二十三條

本條約ノ解釋ニ關シ何等カノ紛争ガ締約國間ニ生ズルニ至リタルトキハ
右紛争ハ第三條ニ規定セラルル手續ニ從ヒ解決セラルベシ

第二十四條

本條約ハ批准セラルベシ批准書ハ成ルベク速ニ「ハーグ」ニ於テ交換セ
ラルベシ

第二十五條

本條約ハ批准書交換ノトキヨリ實施セラルベク且其ノ實施ノトキヨリ五
年ノ存續期間ヲ有スベシ

本條約ハ右期間ノ滿了ノ六月前ニ廢棄セラレザルトキハ更ニ五年ノ期間
ニ付暗黙ニ更新セラレタルモノト認メラルベク且爾後モ同條タルベシ
本條約ノ期間滿了ニ當リ本條約ニ依ル何等カノ手續ガ常設調停委員會、
常設國際司法裁判所又ハ仲裁裁判所ニ繫屬中ナルトキハ右手續ハ其ノ完
了ニ至ル迄續行セラルベシ

右證據トシテ前記全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和八年四月十九日即チ千九百三十三年四月十九日「ハーグ」ニ於テ本書ニ通テ作成ス

齋

藤

博(印)

ベラー、ルツ、ファン、ブロックラント(印)

二、署名議定書

日本國和蘭國間司法的解決、仲裁裁判及調停條約ノ署名ヲ爲スニ當リ下名ノ全權委員ハ左記ニ付意見一致ナル旨ヲ宣言セリ

- 一 前記條約ハ兩國間ニ生ズルコトアルベキ一切ノ紛争ニシテ第三國ノ利益ニ直接關係スルコトナカルベキモノニ適用セララルベシ
- 二 千九百三十三年三月二十七日ニ豫告セラレタル日本國ノ國際聯盟脫退ノ實現ニ依リ常設國際司法裁判所ニ對スル日本國ノ法律的地位ニ變化ノ生ズルコトアルベキ場合ニハ締約國ハ日本國政府ノ請求ニ依リ前記條約ノ規定ニシテ右裁判所ニ關係アルモノヲ變更スルノ必要アリヤ否ヤヲ審查スル爲商議ヲ開始スベシ右商議中前記規定ノ適用ハ停止セララルベシ尤モ日本國政府ガ前記請求ヲ爲シタ際ニ常設國際司法裁判所ニ繫屬中ナル手續ハ其ノ完了ニ至ル迄續行セララルベク又前記條約ノ規定ハ此等ノ場合ニ右裁判所ノ決定ニ引續キ適用セララルベシ

昭和八年四月十九日即チ千九百三十三年四月十九日「ハーグ」ニ於テ

齋

藤

博

ベーラー、ルツ、ファン、ブロックラント

文書成立ニ關スル證明書

自分ハ外務省文書課長ノ職ニ居ル者ナル處、茲ニ添付セル日本語及佛語ニ依リ印刷セラレ二十頁ヨリ成ル日本國和蘭國間司法的解決仲裁裁判及調停條約ト題スル印刷物ハ日本政府（外務省）ノ編纂發行ニ係ル文書ノ一ナルコトヲ證明ス

昭和二十二年二月四日 於東京

杯 馨

右署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ爲サレタルモノナルコトヲ證明ス

同日於同所

立會人 浦部勝馬